

9 Poor risk 進行非小細胞肺癌に対する Carboplatin + weekly Paclitaxel 併用療法

前田 恒治・長澤 芳哉・塚田 裕子
横山 晶

県立がんセンター内科

【目的】 Poor risk 進行性 NSCLC に対する CBDCA + weekly PTX 併用療法の安全性と有効性を検討する。

【対象】 臨床病期Ⅳ期または根治照射不能Ⅲ期 NSCLC 患者で、化学療法初回治療、PS = 2 または前治療のある poor risk 患者。

【方法】 CBDCA (AUC = 5) を第1日目、PTX 70mg/m² を第1, 8, 15日目に投与、4週毎に4コース実施。

【成績】 計54症例が登録。PS1/2 = 17/37例、前治療あり27例で脳転移治療後10例、胸膜癒着術後7例、術後再発3例。G3以上の好中球減少31%、貧血11%、血小板減少4%。G3以上の非血液毒性は嘔吐・下痢各4%、治療関連死亡を1例認めた。奏功率は38.8%だった。

【結論】 CBDCA + weekly PTX 併用療法は忍容性が高く抗腫瘍効果も良好で poor risk 進行 NSCLC に対する治療の選択肢の一つとなり得ると考えられる。

10 当科における超高齢者(80才以上)肺癌に対する外科治療の現状

篠原 博彦・小池 輝明・大和 靖
吉谷 克雄

県立がんセンター新潟病院呼吸器外科

【目的】 80才以上の超高齢者肺癌が増加している。当科での外科治療成績より、その妥当性につき検討した。

【対象と方法】 1990年1月から2005年3月までに当科で原発性肺癌に対し手術を行った2519例中80才以上の121例につき検討した。

【結果】 年齢は80才から89才で平均81.9才。臨床病期はⅠ期/Ⅱ期/Ⅲ期が=110例/7例/4例、術式は肺葉切除/縮小手術(区域切除+部分切除)/試験開胸が=52例/67例/2例。5年生存率は79

才以下62.3%に対し、80才以上58.3%であった。80才以上で術式別では肺葉切除例51.9%、縮小手術例66.7%で、いずれも有意差は認めず。病理病期別ではⅠ期/Ⅱ期/Ⅲ期が=68%/0%/35%で、Ⅰ期とⅡ期以降とに有意差を認めた(p < .0001)。

【まとめ】 80才以上での手術成績は79才以下と比較し遜色は認めなかった。80才以上の超高齢者においても、外科切除の意義はあると考えられた。

11 無治療経過観察とした前立腺癌患者の検討

原 昇・斎藤 俊弘・北村 康男
小松原秀一

県立がんセンター新潟病院泌尿器科

【背景】 無治療経過観察(WW)が選択される low-risk 早期前立腺癌症例が増加している。

【方法】 WWとなった low-risk 前立腺癌(PSA < 20ng/ml, 生検組織 Gleason 4以上がない、癌陽性 core 数2以下かつ癌占拠率50%以下)の53例とその他5例を対象とした。

【結果】 診断時年齢は52-83(平均71.0)歳、PSA値は1.7-21(平均8.52)ng/mlであった。PSA上昇のため、10例で8-16ヶ月後に内分泌療法などの治療が行われた。3例が観察中7-22ヶ月後に他因死した。15例が3-92ヶ月後に受診を中止した(理由不詳)。25例が6-36ヶ月間WW中である。最終のPSA値は0.89-24.5(平均8.65)ng/mlであった。

【考察】 当科ではWW患者の明確な治療開始基準はない。PSAだけでなく画像や他のマーカーも経過の指標となりうるのか検討中である。